

# 平成18年度 決算状況について

## 事業の概況について

当期のわが国経済は、原油価格の高騰など不安要因を抱えながらも、世界経済の拡大による好調な輸出、企業業績の回復を背景に設備投資の増加、堅調な個人消費などから、持続的な景気回復基調が続きました。

当金庫の営業基盤である岐阜・愛知両県におきましても地域・業種により格差はあるものの景気回

復のすそ野は広がりを見せています。

こうした経済状況のなか、全役職員が一致協力して業績の進展と経営の健全化に邁進しました。

以下では平成18年度の事業の概況について、より深くご理解いただくため、主要な指標を示しながらご説明いたします。

## 損益の状況について

平成18年度の経常収益は、貸出金利息や手数料収入の増加および株式等売却益などにより510億49百万円と前期比44億14百万円増加した一方、経常費用は、金利上昇による預金利息の増加および貸倒引当金の積み増しなどにより466億22百万円と前期比83億78百万円増加しました。

この結果、経常利益は44億26百万円と前期比39億63百万円減少しました。

また、税効果会計による法人税等調整額などを加減した結果、当期純利益は39億82百万円となりました。

### 語句説明

#### 【業務純益】

一般企業の営業利益に相当するもので、本来の業務によって稼ぎ出した利益のことです。

#### 【コア業務純益】

業務純益から、一般貸倒引当金繰入額および国債等債券損益を除いて算出され、本来業務から得られる利益をより正確に表す指標です。

#### 【経常利益】

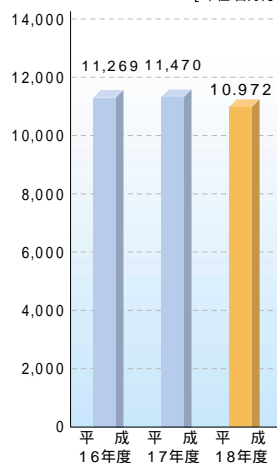
業務純益に株式の売却損益・償却および不良債権処理に要した費用等を加減したものです。

#### 【当期純利益】

経常利益に特別損益および税金等を加減した最終的な利益です。

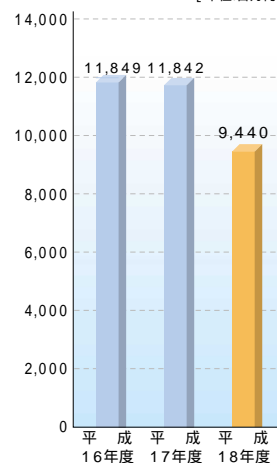
### コア業務純益

[単位:百万円]



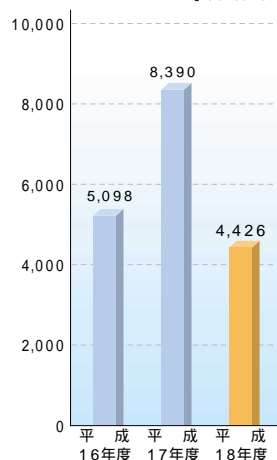
### 業務純益

[単位:百万円]



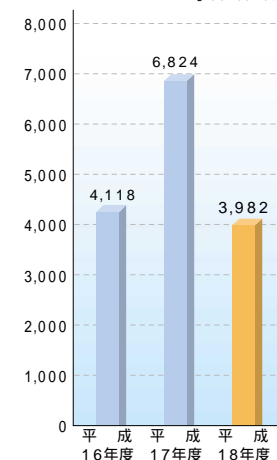
### 経常利益

[単位:百万円]



### 当期純利益

[単位:百万円]





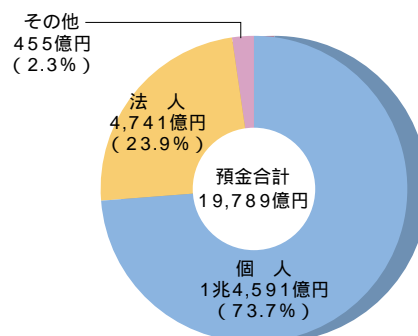
## 預金について

お客様のニーズに的確、かつタイムリーにお応えする各種預金商品の取扱いと、「お客様本位」のサービスに徹し、地域密着の営業活動を推進してまいりました結果、預金残高では前期末に比べ141億円の増加となり、平成19年3月末現在、1兆9,789億円となりました。

また、預金者別預金残高の割合を右のグラフで見ると、個人預金の残高は平成19年3月末現在、1兆4,591億円で預金残高に占める割合は73.7%となっています。当金庫が地域金融機関として、地元の個人のお客様を中心とした預金業務を行っていることがご理解いただけると思います。

預金者別預金残高の割合

(平成19年3月31日現在)



預金残高の推移

[単位:億円]



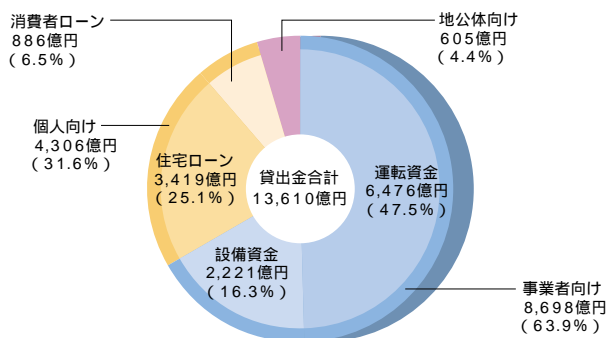
## 貸出金について

地元企業および個人のお客様への資金需要にお応えできるよう、各種ローン商品の開発・提供に努めてまいりました結果、平成19年3月末現在、貸出金残高は前期末に比べ602億円増加し、1兆3,610億円となりました。

この貸出金残高を事業者・個人別資金用途別に見てみると、右のグラフのように事業者向けが8,698億円で、貸出金全体に占める割合は63.9%となっています。事業者向けの内訳は、運転資金が6,476億円、設備資金が2,221億円となっています。また、個人向けは4,306億円(31.6%)となり、その内訳は住宅ローンが3,419億円、消費者ローンが886億円となっています。当金庫が地元密着し、個人のお客様にも積極的な融資業務を行っていることがご理解いただけると思います。なお、地公体向けは605億円(4.4%)となっています。

事業者・個人別資金用途別貸出金残高の割合

(平成19年3月31日現在)



貸出金残高の推移

[単位:億円]

